【今さら聞けない？基礎知識】丸ごと転送で情報漏洩！？

「こんなこと、誰に聞いたらいいか分からない！でも、知りたい」という疑問や質問に何でも答えちゃうコーナーです。(多くは事務局の実体験がもとになってます(^^;)

今回は、メールにも FAX にも通じるお話。これがもし派遣絡みだったら、大変です。

今、趣味でハンドベルのサークルに入ってるんだけど、今度の福祉大会で、うちのサークルが出演することになったらしいのよ！
まだ内々の話だけど、FAX 転送しといたから、見に来てね。

あっ。その FAX、昨夜見たんだけど、あれ打合せ書類だよね？
会場までの送迎とか、謝礼や交通費のことまで書いてあったよ。
用紙の端に、転送元の FAX 番号まで載ってたし…。

えっ！そうだった？ そんなところまで見てなかったわ…。
うちの代表からもらったのを、そのまま転送しちゃったの。
その転送元の番号って、たぶん、うちの代表のだわ…。

まあ、大掛かりなイベントみたいだから、たくさん情報があって抜粋するのが大変なんだろうってのは、分かるけどね…。
さすがに、内々のをまるごと転送はマズイんじゃない？

ごめんなさい。メールのときだけ注意すればいいと思ってたわ。
FAX でも情報漏洩って、あるのね…。

そりゃ、手段じゃなくて、扱う人間の意識の問題だもん。
しかもメールは普通、個人で使うから、本人だけ見る場合が多いけど、FAX だと、受信した紙を家族が見ちゃう場合もあるよ。

あっ、そうよね！
あの…、申し訳ないけど、ご家族にも、内密にしてもらうようにお願いしてもらえるかしら。 次からは必要な部分だけ、抜粋して別の紙に書くか、貼り付けるようにするわね。ごめんなさい。

※なお、皆さんも、質問してみたい言葉がありましたら、代表アドレスか役員まで、遠慮なくお寄せください。(ただし「今まで何度か聞いたことがある言葉」でお願いします(^^;)

【連載】「要約筆記実践セミナー」紙上編（16）～OHC ③～

こんにちは、横山です。この号が届くころは、試験も終わって、ひと息ついているでしょうか。学習会や実践セミナーにも、たくさんの方が参加してくださいました。ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。

さてこのコーナーでは、しつこく(^^; OHC の話題を続けていきます。こちらも「保存版」として参考にしていただければと思います。

◆復習：今までに説明したこと　～ケーブルと端子の種類、OHC 側の設定～

では、今回も復習からまいりましょう。

OHC 設営でトラブルが起こった場合、確認するチェックポイントは以下の３つでした。

① **映像伝送ケーブルの種類**
② **OHC 側の設定と端子**
③ **プロジェクター側の設定**

前回は②について「OHC 側は、どの端子から映像を出力するか、手動で設定してやらねばならない」と申し上げたかと思います。思い出してもらえましたか？

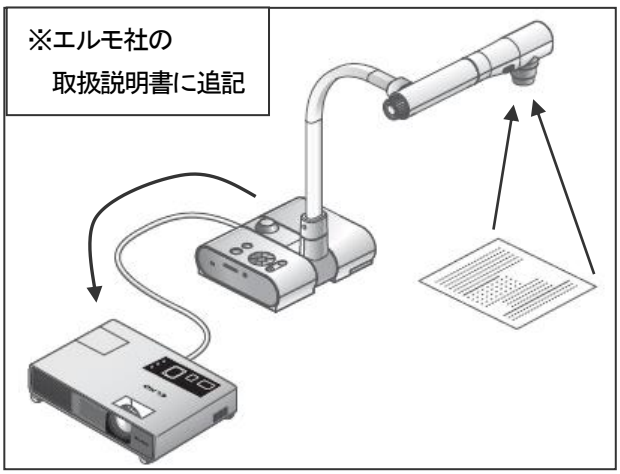
「入力」と「出力」という概念（イメージ、考え方）について

今回は③の「プロジェクターの設定」についてですが、具体的な操作の前に、「入力」と「出力」という概念について、ご理解いただこうと思います。というのも、最近のプロジェクターの一部の機種では、VGA 端子が複数付いていて、片方が「出力（OUT とも）」となっているからです。うっかり間違えて OHC やパソコンからこちらにつないでしまっていると、投映できないばかりか、故障のもとにもなりかねません。

…と、脅かしてしまいましたが(^^; 考え方はそれほど難しくありません。

まずは「**どこからどこへデータが流れているか**」をイメージしてみましょう。その「流れ」が、プロジェクターから見て「入ってくる（入力）」ものか、「出て行く（出力）」ものか、考えてみればいいのです。

右図なら「入力」と分かりますよね？



③プロジェクター側の設定と端子

さて、本題に戻りましょう。OHC トラブル対応の手順、③の「プロジェクターの設定」についてです。OHC では、出力端子設定は完全に手動ですが、プロジェクターの場合は、入力端子の自動検出機能がついているものも多くなりました。これは「今、どの端子にケーブルがつながっていて、データが来ているか」を自動で判定してくれるものです。

ケーブルがつながっていれば、何らかの信号が入ってきますので、プロジェクター側に検出機能があれば、その信号をチェックすることができるわけです。たいていは全ての入力端子をローテーションでチェックしていき、データが来ている端子のところで止まって、その端子からのデータを投映するようにしてくれます。(もちろん、自動検出をやめて手動にすることも可能です)

複数ケーブルをつないでいる場合は、ローテーションしていった順番で、最初に信号を検出した端子のところで止まるようになっていますが、もう一度自動検出をさせれば、次の端子から再びチェックを始めてくれますので、目的の端子になるまで繰り返しましょう。

自動検出機能がない場合は、手動で「入力切替」や「ソース(Sauce)」等と書いてあるボタンを押すか、メニューから選択項目を探しましょう。比較的古い機種だと「ビデオ」「コンピュータ」というボタンで二択になっている場合もあります。VGA 端子を選びたければ、「コンピュータ」を押せばいいでしょう。

残念ながら、プロジェクターの仕様は、現時点では標準化されていません。入力端子の選択だけでなく、台形補正や明るさなどの調整方法も、機種ごとに異なっており、私自身、初めて出会ったプロジェクターに現場で四苦八苦することもある状態です。

このため大きな現場や普段行ったことのない会場では特に、事前に相手が用意してくださる機種のメーカーや型番をお聞きして、インターネットで情報を調べてから行くようにしています。特に明るさは、ホールなら 3000 ルーメン(1ｍ)以上欲しいところです。

事前に調べてみて、不安があるようなら、機種の変更ができないかお願いしてみたり、こちらで手配できる予備のプロジェクターを持参する、などというのも、ひとつの「危機管理」といえるでしょう。

★まめちしき★

現在使われているプロジェクターには、多くの場合、黄色端子(ビデオ端子)、VGA 端子が付いているものが多く、さらに機種によっては HDMI や S 端子(S―ビデオ)、USB 端子(B 型=四角いもの。よくプリンター等に付いている)など、多種類の入力用端子が付いています。さらに、プロジェクター自身に USB メモリや SD カードなどのメディア挿入口があり、パソコンなしで写真等の電子ファイルを展開する機能を持つものもあります。入力端子が多いほど、検出ローテーションは時間がかかります。